

第14回 どのような学生が必要か

こんにちは。

長崎大学人、河野茂です。

各大学の受験の競争率が発表されました。

センター試験の最後の年、長崎大学全体の競争率は、昨年とほぼ同様でした。

大きな低下がなかったのは幸いです。

新学部の情報データ科学部も、まずまずの人気で今後の頑張りが必要です。

関係者の皆さん、大変ご苦勞様でした。

プラネタリーヘルスを推進する長崎大学丸の主要な乗組員は、

いうまでもなく受験を勝ち抜いてきた学生です。

いま在籍する学生のうち何名かは、将来の長崎大学丸の舵取りをする人物になるでしょう。

そうなってくれると信じています。

では、学生にとって、長崎大学丸はどうあるべきでしょうか？

もちろん、学生が社会で生きてゆくための能力を身に付ける場、

会社で役に立つ技術を身に付ける場、資格を取るための場であることは必要条件です。

今の社会は、そのようなことを大学に求めています。

しかし、私としては、学生が長崎大学丸に乗り込み、

<人生とは何か？>

<自分はどう生きてゆくべきなのか？>

<社会とはどうあるべきなのか？>

等の、大きな問いを立てて、葛藤や挫折の中から自分なりの答えを導く

努力をして欲しいと思います。

人生は長く、時代の変化は激しく、大学で学んだ知識や技能は、10年も経てば

役に立たないものとなる可能性は十分にあります。

私が学んだ医学の分野などは、まさにそうで、10年、いや5年前の常識が

今の非常識になることなど、よくある話です。

ですから、教員は目先の知識や技能を教授するだけでなく、学生自身が自分で

<問い>を立てて学び続ける方法を教えて欲しいと思います。

<魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える>

という言葉があるように、自問自答し、もがきながら、

答えを見つける人材を育てて欲しいのです。

答えなど、そう簡単に見つかるものではありません。

しかし、挑戦してゆくことが大切なのです。

長崎大学丸の乗組員になる唯一の資格は、

<問い>続け、<挑戦>し続けることなのです。

教職員の皆さんの教育に関する

熱い議論とご意見をお待ちしております。

お気軽にメールください。